

# 親子聖書日課

[日]うわさほどいい加減なものはありません。悪魔はうわさを利用して、信仰をぐらつかせ、不信感を植えつけます。しかし、しっかりと御言葉に立つなら、惑わされません。うわさ「噂」は、口をもって尊ぶことですから、主のことを噂しましょう。

[月]最後は哀れなユダの末日を記しますが、ここでも主の恵みが語られています。残酷なバビロン王でさえ捕らわれのヨヤキンに情けをかけ、日々の糧を与えました。主は愛する人を見捨てられません。「死ぬ日まで」霊の糧が与えられています。

[火]哀歌とは1節の「なにゆえ」という嘆きの声からつけられました。バビロンによって滅ぼされたエルサレムについての言葉です。民は罪を犯した事を告白し、主の憐れみを求めました。各章は22節からなり、各節が「いろは歌」になっています。

[水]「昼も夜も、川のように涙を流せ・主の御前に出て、水のように、心を注ぎ出せ」とは、魂の救いのために、日夜、神の御前に全身全霊を注ぎ出して祈ることです。滅びをなす術もなく見てはいけません。祈りこそ、なすべき最善のことです。

[木]3章は22の3倍、66節から成っています。それは、エルサレムへの嘆きが頂点に達し、それが深められていることを表しているのでしょう。実際、ここでは、嘆きだけでなく、主の慈しみ、憐れみ、救いが記され、神への信頼と希望が溢れています。

[金]エレミヤは「都の娘」エルサレムを破滅から救う為に、「主が目を留めて下さる時まで」涙して祈りました。この救霊愛を見倣いたいです。主を信じなければ、誰でも破滅の道しかありません。救いの為に、涙して祈る人を、主は今日も求めておられます。

[土]「おとめシオンよ、悪事の赦される時が来る」とは、主イエスによって成就しました。主の十字架によって、私達の罪は完全に赦されました。もう二度と裁かれることはありません。罪の捕囚から解放されたことを喜び、主を信じましょう。



NO.1442 2016.5/15-21 名前

	聖書	問題	答え
日	エレミヤ 51:46-64	この地で耳にする何を恐れてはいけませんか	
月	52:1-34	ヨヤキンは生きている間何を常にバビロン王から支給されましたか。	
火	哀歌 1:1-22	エルサレムは何に何を重ね、笑いものになりましたか。	
水	2:1-22	主の御前に出て、水のようにあなたの心をどうすべきですか。	
木	3:1-30	主の慈しみは決してどうしませんか。	
金	3:31-66	私の目は休むことなく、何を流し続けますか。	
土	4:1-22	乙女シオンよ、悪事のどうされる時がきますか。	
		<b>感想と祈りの課題</b>	